

岡山市公共施設等総合管理計画
個別施設計画「オリエント美術館」
(第2期計画)

令和8年3月
岡山市教育委員会
生涯学習部
オリエント美術館

目 次

1	計画の位置づけと目的	1
2	計画の期間	1
3	計画の対象施設	1
	(1) 施設の役割	
	(2) 施設の概要(建築)	
	(3) 施設の概要(設備)	
	(4) 施設の概要(美術館)	
	(5) 利用状況とコスト等	
4	施設の現状と課題	3
	(1) 施設の現状と課題	
	(2) 指定管理の検討	
5	施設整備の方針	4
	(1) 今後の方針	
	(2) 目標使用年数	
6	施設整備の対応内容	5

1 計画の位置づけと目的

公共施設等が老朽化に伴う更新時期を迎える中であって、財政負担の平準化を図りながら、市民の安全・安心を確保し、サービスを将来にわたって持続的に提供していく必要があります。さらに、子育て環境の向上、防災機能の強化、脱炭素の推進などへの対応も必要です。

このため、長期的な視点で、財政負担の平準化を図り、市民の安全・安心を確保し、必要なサービスを将来にわたって提供していくことを目的として、平成 29 年 3 月に「岡山市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」という。）が策定され、そしてこの度、第 1 期計画の計画期間が満了となるため、これまでの取組状況等を踏まえ、新たに第 2 期計画が策定されます。

この「総合管理計画」の中で、個別施設単位あるいは施設類型単位で施設の更新や規模の適正化等を進めていくために「岡山市公共施設等個別施設計画」を策定することになっています。これにより、岡山市公共施設等総合管理計画個別施設計画「オリエント美術館」（第 2 期計画）（以下「本計画」という。）は、施設の適切な保全管理の推進のために策定するものです。

2 計画の期間

本計画の計画期間は、「総合管理計画（第 2 期計画）」が令和 8 年度から 10 年間で対象とした計画であるため、令和 8 年度から令和 17 年度（西暦 2026～2035 年度）までの計画とします。なお、状況の変化があった場合には、必要に応じて適宜見直しを行います。

3 計画の対象施設

施設名	岡山市立オリエント美術館
-----	--------------

（1）施設の役割

オリエント美術館は、岡山市の保有する公共施設のうち、社会教育施設に位置付けられる施設です。市民の教育、学術及び文化の向上発展に寄与するため、博物館法(昭和 26 年法律第 286 号)に規定される博物館（美術館）として開館しました。

オリエント地域の考古美術資料を専門とする公立としては国内唯一の美術館として、世界最古の都市文明が生み出した文化史的・美術的に貴重な収蔵品を研究・調査し、公開することで、地域文化と異文化との橋渡しの役割を担い、市民それぞれに多角的な視点を提示することが当館に課せられた使命であり、今後もこの施設を存続・発展させ、次世代に引き継いでいく必要があります。

(2) 施設の概要(建築)

種 別	博物館(美術館)
施設名称	岡山市立オリエント美術館
所 在 地	岡山市北区天神町 9-31
設 置 者	岡山市(管理・運営：岡山市教育委員会)
用 途	美術館(博物館法第2条第1項に規定・岡山県博物館登録第14号)
設置目的	市民の教育、学術及び文化の向上発展に寄与 美術品・考古資料の収集、保存、調査・研究、展示、教育普及
構造規模	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階
延床面積等	延床 4,336.13 m ² / 建築 1,386.89 m ² / 敷地 1,786.60 m ²
開館年月日	西暦 1979年4月6日
総工事費	1,840,000,000円
受賞歴等	1979年 照明学会 照明普及協会証明普及賞 1981年 建築業協会賞 1988年 第1回公共建築賞文化部門最優秀賞 1999年 BELCA 賞ロングライフ部門 2006年 第6回 JIA 25年賞一般建築部門大賞 2025年 DOCOMOMO Japan 日本におけるモダン・ムーブメントの建築 300選

(3) 施設の概要(設備)

機械設備	<input type="checkbox"/> 空調換気設備 <input type="checkbox"/> 給排水衛生設備 <input type="checkbox"/> 昇降機設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ガス焚吸収式冷温水発生器 ・水冷式パッケージ型空調機 ・排煙設備
電気設備	<input type="checkbox"/> 受変電設備 <input type="checkbox"/> 非常用自家発電設備・蓄電池 <input type="checkbox"/> 自動盗難警報設備 <input type="checkbox"/> 自動火災報知・防排煙設備 <input type="checkbox"/> 照明設備 <input type="checkbox"/> 館内放送設備	
消火設備	<input type="checkbox"/> ハロン1301消火設備 <input type="checkbox"/> 泡消火設備 <input type="checkbox"/> 屋内消火栓設備 <input type="checkbox"/> スプリンクラー消火設備(地下講堂)	

(4) 施設の概要(美術館)

この施設は、オリエント地域の文化財を収蔵することを前提にデザインされたことから、建築物自体の文化財的価値に対する評価も高く、上記のような数々の建築賞を受賞しています。セットバックしながら重層して積み上がる外観、二つの吹き抜けで構成された空間を緩やかに結ぶ壁構成、トップライトから差し込む光の演出など、随所にオリエント世界のエッセンスが散りばめられています。

収蔵品は開館当初、市民等から寄贈・寄託されたイラン、イラク、シリアなど狭義のオリエント地域の考古美術資料約2千点でしたが、後に寄贈・寄託を受け、購入した品も加え、ガンダーラ仏教美術、ギリシア陶器などオリエントとその周辺を網羅す

る約4千8百点（R7.3.31 現在）を収蔵しています。なかでも平成16年の開館25周年に際し、市費に加えて市民からの募金により1億数千万円で取得した「有翼鷲頭精霊像浮彫」（アッシリアレリーフ）は新アッシリアの宮殿の壁面彫刻の一部で、その連続する部分は、大英博物館（英国）、ルーブル美術館（仏国）、メトロポリタン美術館（米国）に収蔵・展示されており、本市の文化力の高さを象徴する考古資料です。

（5）利用状況とコスト等

年間入館者数からみる利用状況ですが、令和4年度には岡山芸術交流の展示施設になったことで例年に比べ増加しており、また年間60日間程度行う特別展の内容による影響を受けます。一方、年度ごとの経費は長寿命化改修工事の費用を除くとあまり変動がないため、入館者1人あたりのコストの低減には入館者の増加が求められます。

項目 \ 年度	R2	R3	R4	R5	R6
入館者数(人)	4,354		33,442	23,509	29,435
開館日数(日)	141		257	287	283
平均入館者数/日(人)	30.88		130.12	81.91	104.01
年度経費(千円)	95,341		134,783	130,406	130,564
年度収入(千円)	2,806		17,484	10,247	14,887
コスト(経費/人)(千円)	21.90		4.03	5.55	4.44
コスト(経費/㎡)(千円)	21.99		31.08	30.07	30.11

※令和2年10月から令和4年3月まで長寿命化改修工事のため休館。

4 施設の現状と課題

（1）施設の現状と課題

令和2・3年度の長寿命化改修にて、経年劣化した外壁の改修、防水工事、洗面所改修、ユニバーサルトイレの新設、収蔵庫改修、大型スクリーン設置等を行いました。

設備面の課題としては、鑑賞者用エレベーターが無く、階段移動困難者に対して、職員付き添いでバックヤードの収蔵品運搬用エレベーターを利用していることが挙げられます。本来、職員・関係者のみが立ち入りを許されるバックヤードに一般鑑賞者が入らざるを得ない状況であり、セキュリティ対策の徹底及び鑑賞者の利便性の向上に向けた対策が必要です。

—劣化調査・修繕(改修)等の実績—

この施設は旧耐震基準に基づく建築物ですが、調査の結果、耐震性に問題はありませんでした。そのため、省エネルギー化を目的とした展示ケース内照明のLED化と空調・昇降設備工事を経て令和2・3年度に長寿命化改修工事を実施、その後は空調機器のオーバーホールや緊急度の高い箇所の修繕を随時行っています。

年度	工事等	備考
H7	建物劣化調査診断	劣化調査

H22	耐震診断調査	耐震診断
H22	大規模空調改修工事	約2億6,000万円
H25	展示ケース改修工事	約5,000万円
H26	修繕計画策定用建築設計業務	劣化診断
H26	屋上雨漏り応急的措置／地下搬入口雨水浸入防止 等	事後保全
H27	緊急防水修繕／空調機フィルター取替 等	事後保全
H28	昇降設備修繕工事 等	約3,000万円
H29	汚水配管修繕／火災報知設備修繕／非常放送設備修繕 等	事後保全
H30	雨水配管修繕 等	事後保全
R1	長寿命化改修工事	実施設計
R2-3	長寿命化改修工事	約4億9,000万円
R4-6	空調機フィルター取替、空調機修繕工事 等	事後保全

(2) 指定管理の検討

オリент美術館は、設立当初から用途・外観・内観のいずれも変わらず保存状態も良いことから、建築物として高い評価を受けています。また収蔵品の大半は、自治体が管理運営を行う美術館であることへの信頼の下、市民等から寄贈・寄託を受けている貴重な学術資料です。さらに令和4年度からは教育委員会所管の直営施設であるメリットを活かし、現場経験豊かな教育普及担当が学芸スタッフとともに学校連携推進に取り組み、本市の児童生徒・教員の学びの充実に貢献しています。

このような現状を踏まえ、施設・収蔵品両面での継続的な保存環境の担保、長期的視野に立脚した専門性の高い学芸スタッフの確保・育成、収蔵する人類共通の文化遺産を教育現場においても主体的な活用していくことが本市教育振興に寄与するとの観点から、オリент美術館は直営で運営しています。

一方で全国的には、市民サービス向上や民間活力導入によるコスト縮減効果への期待から、指定管理者制度を導入している施設も存在しています。現在、全国の同種公立施設の約3割、また政令指定都市における同種施設の約4割が指定管理となっており、指定管理施設とする場合であっても、学芸部門業務（収集・保管、調査研究、企画等）を含む全部門を指定管理とする方式、運営総務部門や学芸部門以外の管理業務（広報・受付・清掃・機械設備管理等の施設管理等）のみを指定管理者に任せる方式など、指定管理業務の範囲は施設により異なります。

オリент美術館においては、指定管理について、制度導入により見込まれる効果や、専門家自体が極めて少ない分野である当館の特性、さらに指定管理者導入を巡る他市の動向等を総合的に勘案し、多角的な視点から検討を進めていくこととします。

5 施設整備の方針

(1) 今後の方針

これまで述べたように、当館は市民等から寄贈・寄託を受けた貴重なオリエントの文化財を収蔵していること、また、それらを収蔵・展示するために専用に設計され、多くの建築賞を受賞している優れた建築物であること、また、建築基準法の昭和56年耐震基準以上の耐震性を備えていることから、他の公共施設等との合築・複合化整備は行わず、単独で維持すべき公共施設として長寿命化改修工事を行いました。また令和7年に、近代建築の記録と保存を目的とする国際組織 DOCOMOMO の日本支部から「日本におけるモダン・ムーブメント建築 300 選」に選定された当館の文化財的価値を損なうことのないよう、適切に管理していきます。

(2) 目標使用年数

鉄筋コンクリート造である本施設の本来の法定耐用年数は、国税庁の標準耐用年数表によると50年です。

一方、社団法人日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」によると、鉄筋コンクリート造の学校や官庁、事務所、病院等の望ましい目標耐用年数は普通品質で50～80年です。また、国土交通省損失補償取扱要領（平成15年国総国順第58号通知）第6条の非木造建築物等級別標準耐用年数表に示される学校や事務所、病院、店舗等の耐用年数は90年です。

当館建物は、法定耐用年数からその寿命である物理的耐用年数にできるだけ近づけて使用するため、令和2・3年度に長寿命化を企図し、外壁や屋上からの雨漏り防止、腐食した大型建具の交換等の大規模改修工事を行い、施設機能を建設当時に近い性能まで回復・向上させています。

このことから、目標使用年数を法定耐用年数である50年より30年長い80年としており、コンクリートの中性化の進行は軽微であることから、今後も中長期的視点に立った予防保全の考え方にに基づき、目標使用年数を超えてもその機能を保つことができるよう、財政負担の抑制と平準化を図りつつ、適切な時期に建物や設備の修繕等を行います。

6 施設整備の対応内容

施設については令和2年度から令和3年度にかけて行った長寿命化改修工事により、主に外壁、防水、内装等の改修を実施しました。今後も予防保全の考え方にに基づき、計画的に空調設備等の更新を行っていきます。

さらに、日常的な点検の強化により施設の維持管理を徹底し、適切な施設機能の保持に努めます。